



清水けんいち 市政レポート

政策討議資料
第41号
2018年7月

【ご挨拶】

皆様の、日頃からのご支援ご協力に、心より感謝申し上げます。議員活動を市民皆様に御報告する事で、少しでも開かれた政治にしていきたい。皆様と力を合わせて「住みやすく・暮らしやすく・子育てしやすい街」深谷を実現していきたい！そうした思いで、「市政レポート」を発行して参ります。

この市政レポートは私の分身です。毎号ファイルに綴って読んでもらっている子は幸せ者で、そのままポイされている子は涙を流しているかもしれません。

皆さんにお願いします。どうぞ、この子を可愛がってあげて下さい。

【議会報告】

深谷市議会 平成30年度 第2回定例会6月議会が終了しました。

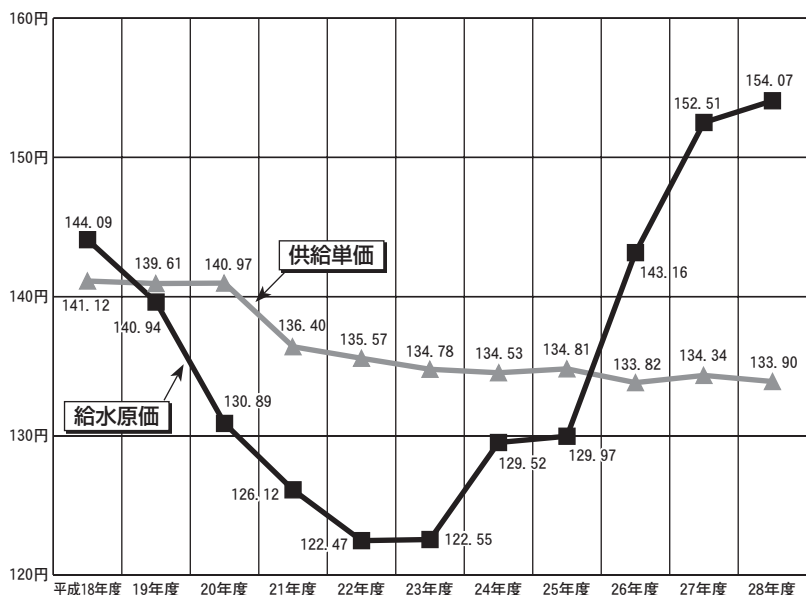
主な議案

- ・税条例の一部を改正する条例（可決）
- ・老人福祉センターの一部を改正する条例（可決）
- ・産業交流施設条例を廃止する条例（可決）
- ・一般会計補正予算（第1号）（可決）
- ・工事請負契約の締結について（可決）
- （他、市長提出議案29件）

特集・清水が危惧する深谷市の問題点「水道事業」

本市の水道事業は、平成18年1月の合併に伴い、旧深谷市、旧岡部、旧川本、旧花園町の水道事業を統合し一つの事業体となりました。事業開始直後の給水原価は1㎡144.09円で供給単価が141.12円と赤字体質でしたが、平成19年度は給水原価1㎡139.61円、供給単価140.94円と黒字に転じ、その傾向は、平成25年度まで続きましたが、老朽化した、岡部浄水場や各地配水場の施設整備や石綿セメント管の敷設換え工事を継続的に行うことによる経費がかさみ、平成26年度から赤字に転じたことから、平成29年度に水道料金の値上げを行いました。また、人口減少や節水型機器の普及により、更に経営が厳しくなることが予想される中、平成34年度には再値上げを予定しております。

供給単価・給水原価の推移



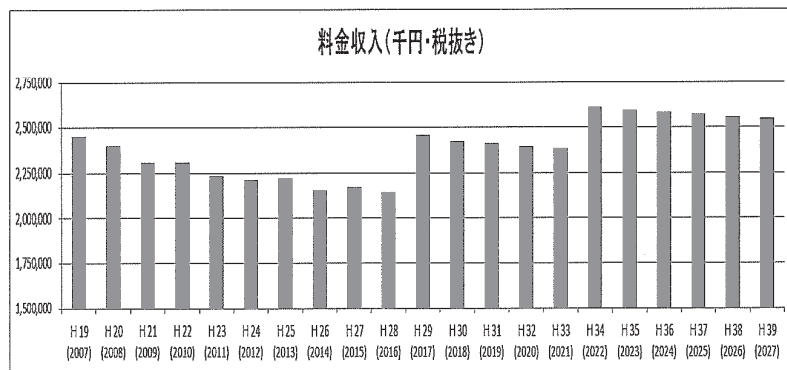
人口が減れば、水を使う量も減ります。つまり、水が売れる量が減るわけです。経費が減らないのに売上が減るわけですから、値上げをしないと赤字になるので、値上げをする。ということは、人口が減り続ければ、値上げも続くということです。では、深谷市の人口を増やしましょう。と言っても急には増えません。

料金収入の見通し

次のグラフは、平成19（2007）年度から平成28（2016）年度にかけての料金収入の実績値と平成29（2017）年度から平成39（2027）年度までの予測値を表したものです。

平成19年度から平成28年度にかけての年間有収水量の減少と比例するように、10年間を通して料金収入も減少してきたと考えられます。料金収入の予測値は、深谷市人口ビジョンの人口シミュレーション及び国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口を勘案して算出しました。

なお、平成29年度に料金収入が増加している理由は、当該年度に料金改定を行ったためです。また、平成34（2022）年度に料金収入が増加している理由は、当該年度に料金改定を行うことを予定しているためです。



【清水が考える解決策・153億円の経費を削減】

本市の水道管総延長は、約1,100kmあり、石綿セメント管を、毎年約6億円の費用で、約11kmをダクトイル鋳鉄管に敷設換えしており、予定では平成32年度に完了しますが、その後、鋳鉄管、鋼管・その他、塩化ビニール管、約575.3kmの敷設換えを行うのに毎年約6億円、合計306億円を投入し51年掛かります。なんと言いましても総延長が約1,100kmもありますので、老朽管の敷設換え工事は、このままでは永遠に続いて行くでしょう。そこで、民間工事では普通に利用されております「ポリエチレン管」に切り替えて工事をする事により、私の試算では約50%の経費で行うことができます。51年間で153億円の経費を削減できます。仮に70%でも91億8千万円減額できます。また、ポリエチレン管は熊本地震でも、その耐震性が検証済みであり、ヨーロッパでは耐久性も100年以上と報告されております。

※ポリエチレン管の採用に関しましては、平成29年12月議会において提言をさせていただき、現在、旧岡部地域内の老朽管敷設換え工事にて実証実験を行っております。

その他、人口減少により、水の販売量が減って行くのですから、売り先を増やす努力が必要です。本市に隣接する寄居町や美里町、小川町や熊谷市、本庄市などにも働き掛けを行い、長期的な視野に立ち検討するべきではないでしょうか、各市町に取りましても、有益であると思います。

アウトレットモール誘致の推進状況！

秩父鉄道の新駅「ふかや花園駅」が完成し、現地視察会が行なわれ内部を見てきました。



6月19日 清水健一の 一般質問と答弁(要約)



「少にして学べば即ち 壮にして為す有り、壮にして学べば即ち 老にして衰えず、老にして学べば、即ち死して朽ちず」

少年の時に学んでいれば、壮年になって、それが役立ち、何事かを為すことができる。

壮年の時に学んでいれば、老年になって、気力の衰えることはない。

老年になって学んでいれば、見識も高くなり、より多くの社会貢献ができるから、死んでも、その名が朽ちることはない。

幕末の儒学者・佐藤一斎の教えです。

人生100年時代を迎える、これからの時代こそ、自らを立派な人財に育てる「終身の計」を打ち立て、一生学び続けて生きたいと思えます。

議席番号15番・清水健一、発言通告書に基づき質問を行ないます。

質問1 “働き方改革への対応について”

メディアで目や耳にする事が多くなり、国会審議も大詰めを向かえております「働き方改革」ですが、民間企業で働くサラリーマンだけではなく、公務員を含めた、様々な人々を取り巻く労働環境が変化すると思われます。

そもそも、何故、働き方改革が必要なのかを理解する事が大切ですが、これは、少子高齢化により、我が国の人口が、どんどん減少していく中、50年後も、今と同じ1億人の人口を保つために、職場・家庭・社会の、ありとあらゆる環境で生きている全ての人々が活躍をし、人口減少を食い止める社会の実現が目的とされています。何故、50年後も1億人の人口を保ち、全ての環境の人々が活躍する必要があるかという、労働力を確保するためであり、少子高齢化がこのまま進むと、日本の総人口は、どんどん減っていきます。分母が減れば、当然現役の働き世代も減りますので、日本全体が労働力不足となり、労働力が不足すれば、日本経済は衰退します。つまり、政府が掲げた三つの政策、一つ目が、女性や高齢者の社会進出促進により、働き手を増やす。二つ目が、出生率を上げて、将来の労働力人口を増やす。三つ目が、労働生産性を上げる事です。そして、この三つの政策をまとめたものが、「働き方改革」と言われております。日本の将来のためにも、成功させなければならない政策であり、国民一人一人が、当事者意識を持って取組んで行かなければと考えます。

今回の質問は、本庁舎の建設も始まったことから、働き方を改革し、いかにして市民サービスを向上させるかという視点で、民間についてではなく、市役所内部について取上げさせていただきます。

そこで質問します。

質問1 “労働生産性の向上について伺います”

複雑多様化する本市の課題・ニーズに対応した、市民サービスの提供を、どの様に考えているのか聞かせて下さい。

答弁 今年度、総務省の補助採択を受け、民間事業者の知見を活用し、窓口業務における、手続きの簡素化・効率化を図るため調査・分析業務を行い市民サービスの向上を努めて行きます。

再質問 川崎市などでは、子育てについての相談や各種手続きに関して、スマホやタブレットを利用して、簡単に問合せができる仕組みを導入し、AI（電子頭脳）を使用して人を介していないため、24時間対応が可能で、利用者からは好評を得ていますが、導入する考えを聞かせて下さい。

再答弁 AIやICTなどの活用についても、調査研究して参ります。

質問2 “花園地区インフラ整備について”

今でも、140号バイパス荒川交差点を中心に、通勤時間や土日には渋滞が発生し、生活道路として利用されている地域の皆様から苦情を戴いております。バイパスを挟んで東西の道路も狭く、整備がされていない中、本年11月には、旧140号荒川交差点北側に大型商業施設がオープンします。そして、平成32年度には、アウトレットモールがオープン予定です。発展に見合ったインフラ整備が必要であり、計画的なインフラ整備が、更なる発展に繋がるのではないのでしょうか。

答弁 本市では、毎年、自治会からの要望を受け、庁内でA・B・Cと優先度の順位付けを行い、地域バランスなどを考慮しながら、予算の範囲内で整備を行っております。議員、ご指摘の140号バイパス西側の道路に関しましては、優先度Bとなっておりますが、今後整備を検討して参ります。

再質問 要望を受けてから整備を行うという現在の仕組みを否定するつもりはありませんが、現在、渋滞が発生している地域で、更に状況が悪化するのが予想されているのですから、渋滞緩和、安全配慮の観点からも、計画的に整備を行うのが普通ではありませんか。

再答弁 現地の状況を調査し、検討させていただきます。

再々質問 花園地域、特に小前田地区は蟹沢排水路がいっぱいで側溝工事ができません。現在、「道の駅」南側の道路下に雨水幹線を敷設していますが、完成はいつになりますか？また、工事が終わった箇所から、どんどん繋いで行く工事をするべきと考えますが、対応を聞かせて下さい。

再々答弁 小前田第5雨水幹線工事の完了は、平成32年度を予定しております。また、工事が完了している区間に関しましては、予算の範囲で接続工事を行って参ります。

【質問を終えて】

花園地域の道路を中心としたインフラ整備などは、将来像を描いている深谷市ですから、計画的に行わなければなりません。タイミングを逃してしまうと、市民生活に悪影響を及ぼし、更には開発が進んでしまい、移転補償などで膨大な費用が掛かる事態となってしまいます。そうした意味でも、道路政策に関して“力”を入れる必要があると提言させていただきます。また、計画的に整備するということも、労働生産性の向上につながり、働き方改革の一環であるとも重ねて提言させていただきます。

※140号バイパス西側の道路整備に関しましては、質問後に協議させていただき、来年度から整備に着手することになりました。（ご報告まで）



140号バイパス西側道路

清水健一連絡先

〒369-1246 深谷市小前田2406-8
TEL 048-584-0395

FAX 048-584-0396

ホームページ：http://www.shimizu-kenichi.jp（ブログ公開中）

E-mail：info@shimizu-kenichi.jp



プロフィール

昭和36年1月27日生まれ（57才）

家族構成 妻、長男、長男妻、長女、次女、孫2人（8人家族）

- 埼玉県立熊谷工業高校 卒業
- 社団法人深谷青年会議所 第35代理事長
- 深谷市PTA連合会 会長
- 深谷市立花園小学校 PTA会長
- 深谷市立花園中学校 PTA会長
- 埼玉県立深谷高校 PTA会長
- ◎ ふかや市商工会 副会長
- 深谷市議会 副議長

このレポートは、今、問題になっている「政務活動費」を使わず清水個人の自費で発行しております。